

ありがとうの灯中

学校便り第7号

令和6年10月15日

福井市灯明寺中学校



本校指導部長の山口先生が発行している指導部だより『一灯照隅』の先月号に、生徒たちが学校祭を通して感じたこと、学んだことを想いのままに表現した一行詩がたくさん載っていました。読んでいて思わず吹き出すようなとてもユニークな作品やとても感心する感動的な作品ばかりで「読み応え」満載でした。

例えば、文化祭では、「誰でも 盛り上げられるような 居場所」「どの場所も お店に負けないクオリティー」「父が布もらい 母が縫った ピンクの衣装」「先輩へ 感謝の想い 伝えたい 最後の演奏 一音入魂」。灯中の伝統『灯中ソーラン』では、「初めて見た 迫力満点 灯中ソーラン」「3年生 生き生き踊るソーランで 来年私も ああなりたい」「ステージ裏 『声出せよ』と グータッチ」「つらい練習 でも今思うと 青春だ」。体育祭では、「先輩の涙 その涙を引き継ぐのは 僕たちだ」「体育祭 終わったのに ずっと頭の中で流れる 応援歌」「もらい泣き みんなの涙が 絆深める」「全員リレー みんなでつないだ ひとつの願い」。応援合戦では、「終わった途端 あふれ出てくる 達成感」「それぞれの色 団結し 順位決まれど ノーサイド」「みんなのポンポンが 飛ばされた先に見える 先生たちの笑顔」「泣き虫応援団 泣くな！私が もらい泣き」など。。本当に中学生らしい視点での、その情景や場面が目に浮かぶ表現ばかりで、心から感動しました。と同時に、「子供たちはちゃんと見ているな。。。と実感でき、子供たちの前に立つ身として、一層襟を正し、『嘘のない教育』、『ありがとうの灯中』づくりに、より一生懸命努力しなければ！と気持ちを新たにしました。

そして、もうひとつ感動的な出来事がありました。それは、この数年間本校の生徒会は自らが主体となって校則の改正に取り組んでいます。先月の職員会議にその生徒会の生徒たちが出席し、自分たちが考える新たな校則改正案をプレゼンして教職員に理解を求めました。私は教職の道に就いて35年が経ちますが、生徒が職員会議に出席すること自体初めてのことでした。しかも、大人を納得させるために沢山のプレゼンシートを用意し、自分たちの学校生活をより良くするためにこんな校則にしたいと訴えました。そして、それを聞いた先生方には、その想いに真剣に応える姿がありました。私は16年前にこの灯中に勤めていましたが、その光景は当時では信じられない程素晴らしく、「この学校は完全に生まれ変わった！！」と確信できました。

すべては、先生方の日々のたゆまない、生徒を大事にした教育の賜であり、その先生方の願いや想いにちゃんと応える素直な灯中の子供たちだからこそ、今の輝く姿が生まれていると感じます。まさに校長冥利に尽きる姿であり、「これぞ！学校！！」と思います。『ありがとうの灯中』の皆さん。これからも一緒に力を合わせて『人を大事にする学校』を創りましょう！！

福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉 (Big Ben)

<敬老会で訪問演奏♪>

9月22日(日)本校の吹奏楽部が中藤島公民館主催の敬老会に出席し、訪問演奏を行ってきました。吹奏楽部長の石田さんのとても心ある素敵な挨拶で始まり、「ふるさと」を含めた多くの曲を披露しました。参加者の方は皆、大絶賛でした。拍手！



<職員会議で生徒会が校則改正のプレゼン！>

9月25日(水)の職員会議に生徒会執行部の代表が出席し、『校則改正』についてプレゼンを行いました。「やらされる」から「自ら考える」をテーマに、生徒が自立する学校にしたいと職員に訴えました。とても感動的で、まさに『ありがとうの灯中』の生徒だと感じました。その執行部の尊い願いや想いがぜひ皆さんに伝わることを心から願っています！

